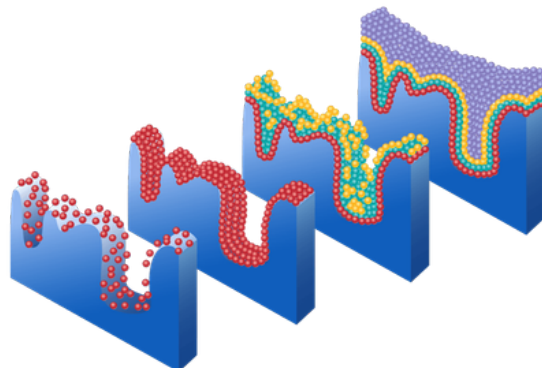


表面積と細孔構造が 材料の違いを左右する

比表面積と細孔径分布を見直すだけで、性能理解が一気に進むことがあります。

よくあるお悩み

- 活性や容量の差をデータで説明しにくい
- 同じ合成条件なのに性能が安定しない
- 前処理や解析手法で比表面積値がブレる
- 細孔径分布が意図通りに再現しない



より正しく、より正確に
表面積や細孔分布を測定しませんか？

材料理解を進める3つの視点



比表面積 (BET法)

前処理や相対圧の設定で比表面積値は変わります。等温線に合った解析範囲の選択が重要。



細孔径分布 (NLDFT法/BJH法)

モデルと吸着種の選択で結果は大きく変わります。適切なモデルの選択が重要。



等温線の解釈 (I, II, IV型など)

ヒステリシスは細孔形状・連結性のサイン。BETだけでなく等温線も併せて読むことが重要。

採用多数！

当社がアカデミアで選ばれる理由



信頼性の高いデータ取得
研究用途に求められる再現性の高いデータ取得

一貫評価で材料を知る

比表面積・細孔径分布・等温線を一貫評価。
材料理解に直結する考察を支援



AccuPyc (骨格密度)

材料の固有密度を把握し、比表面積・細孔径との整合を取りやすく。
※ 比表面積や細孔径だけでは捉えにくい差の解釈に、骨格密度が有効な場合があります。

[AccuPyc 詳細はこちらをクリック！](#)



TriStar II Plus

入門～日常測定に最適。
教育・共通機器での標準器として多くの実績。

[TriStar 詳細はこちらをクリック！](#)

